＜評議員会企画「演題発表についての井戸端会議」報告＞

今回の支部大会では、評議員会企画として「演題発表についての井戸端会議」が開かれました。この時間は、演題発表に関する会員の方からの経験や希望などを自由に話して頂きながら、会員同士の交流を図り、今後の北海道支部の演題発表のあり方を考える機会とすることを目的として設定されました。

当日はZoomのブレイクアウトルーム機能を使って6つのグループに分かれて、評議員もファシリテーターとして参加しながら話し合いが行われ、以下のような様々な意見が寄せられました（一部のみ紹介します）。

（発表してみて感じたこと）

- 発表した理由は資格を取るためだったが、何が何だかわからないままであった。
- 職場内で他職種の人に音楽療法について伝える良い機会となった。
- 抄録の形式に当てはめて書くことや、どういう言葉で表現したらいいかがわからず苦労した。
- 発表は量的なデータや数値化で発表したいがそれが難しい。
- 発表したことで自分の実践を振り返り、掘り下げて考えることが出来て、いい学びの場となった。

（今後の演題発表に希望すること）

- コロナ禍で他の人がどのようにセッションを行っているかの情報が欲しい（セッション例の紹介）
- 抄録を提出する前に、書き方の指導や音楽の表現の仕方などについてスーパーバイズしてくれる人が必要だが、どこにいるのかがわからない。
- 演題発表にテーマやターゲットがあると発表しやすいのではないか。
- 他の研修で学んだことを会員でシェアできるようなワークショップ的な演題発表もいいのではないか。
- 困った時にこうしたらいいというアイデアが得られるような発表を知りたい。
- 小グループでの話し合いや議論ができるような形式の演題発表があるとよい。
- プログラムや楽器、様々なアイデアなど情報を交換できる場が欲しい。

会員からは他にも様々な意見が寄せられましたが、「今回のように会員同士で話し合いができる場はとても良かった」という声も頂き、評議員としては実施して良かったと感じているところです。

評議員会では今回寄せられた意見を参考に、演題発表をする際のサポートシステムについて検討中です。内容が決まり次第、会員の皆様に周知したいと思っています。

（文責　今井常晶）